

佳作

「SDGs―より良い未来の目標」

―SDGs（私達の世代と2030年）―

宮崎県立宮崎大宮高等学校 二年

佐藤 大地

SDGs（持続可能な開発目標）を知っている高校生は少ないと思う。ついこの前、テレビで初めて知り、少し興味が湧いた。私はこの作文を書くに際して、SDGsとそれに關する世界の状況を調べながら、私自身や、私達の世代に何ができるか、何をすべきかを考えてみようと思う。

SDGsは、2015年に国連サミットで採択されたもので、2016年から2030年までに達成する、17の大きな目標と、その達成のための具体的な169のターゲットのことだ。2030年、その時私は29歳を迎える。社会の中心とまでは言えない年齢かもしれない。しかし、SDGsは、世界全体の目標であるから、当然私も、誰もが関心を持つべきだと思う。ここからは、17の大きな目標の中から幾つかを取りあげて、私にできることを探り、すべきことを考えていこうと思う。

まず気になったものは、「貧困を無くそう」である。ここでの「貧困」は、一日の収入が1.25ドル未満の状態のことをいう。1.25ドルは、200円にも満たない。この「貧困状態にある人は、何と、世界に約5人に1人の割合でいる。とんでも無い人数だ。時々、テレビで、ユニセフが、「世界の貧しい子ども達のために義援金を下さい」と呼びかけるのを見る。私も含め、世界には、1.25ドル以上所持している人は山程いるから、そのような人達が1セントでもいいからお金を出し合えば、貧困の人はぐっと減るのではないかと思う。しかし、そんなに事態は単純でない。貧困の原因はさまざまあるからだ。紛争、飢餓、衛生環境の悪さなど。差しはさむが、17の目標の中には、他に、「安全な水とトイレを世界中に」がある。他にもまだまだ貧困と關連のある世界の課題は転がっている。義援金を送る、というような物的支援は、私達が手軽にできることであり、大切な事ではある。しかし、それを何十年も続けても完全な解決に致っていない。「貧困」という問題を2030年までに解決するならば、抜本的で持続的な非貧困状態を目指す解決策を打ち出すべきだ。というより、このような解決策は、幾つかの地域で今実施されている。例として、その地域に井戸を作り、現地の人に農業を教える、というものがある。このような解決策は貧困を

根本的に解決するので、他の課題も解決しうる。だから、総合的な支援を、世界の国々が協力して、どんどん進めていくべきだと思う。

では私には何をすべきか。結局、一人ではできないような、国家間の話になってしまったのではないか。それは至極当然のことだ。個人がやるより、個人の集合すなわち、国家がやる方が何事も強力であるに決まっている。では、私にできることは何か。義援金を送ることか。もちろんそれは大切なことだが、他にできることは何か。私は、もっと大切なことがあると思う。それは、私達はよく口にするものではあるが、実は私達のほとんどがしていないことだ。

それは、「世界を知る」ことだ。別の言い方をすれば、「世界に関心を持つ」ということだ。それは、先程挙げた、17の目標の1つ、「安全な水とトイレを世界中に」について考えてみるとよく分かる。

世界のトイレの問題について調べてみるといかに自分が世界の課題について知らないかがよく分かるのだ。私達はトイレが身近にあつて当然な生活を送っているのに、トイレが無いとどうなるかを容易に想像することはできない。私は、世界のトイレの問題について調べる中で、トイレの無い生活について解説するユニセフの動画を見つけ、見てみた。それに

よると、世界にはトイレが使えない人が世界に3分の1いるということだ。そして、トイレの無い人々は、バケツやビニール袋に排泄しているのだ。このことは予想できることだが、まさか3分の1いるとは思わなかった。貧困状態にある人が約5人に1人だから、人数で見たら、貧困よりトイレ不足の方が深刻だ。知らなかった。その動画はこう続く。排泄物がきちんと処理されないために、排泄物中の細菌が地面や川で増殖し体内に進入することで下痢になる。そして、抵抗力の弱い子ども達が、一日に1600人亡くなっているのだ。私は知らなかった、トイレが無い人が世界にいるのは予想できるが、ここまで深刻な問題だとは思っていなかった。

世界には、私達の知らない、深刻な課題がたくさんあると思う。私達は、既知の課題について議論することも大切にしなから、未知の課題、埋もれている課題を見つけないこともしなければならぬ。だから、世界について知ったつもりにならず、世界に関心を持ち、世界を知ろうとする姿勢を持つべきだ。それが、SDGs、17の大きな目標を達成するための、私達にできる最初の一步である。